

東洋英和女学院大学大学院

2020年度
後期入学試験問題

人間科学研究科人間科学専攻
修士課程 人間科学領域

(死生学)

小論文

I. 歴史上何度もパンデミックが人類を襲って来ていて、その度に人類は耐え凌いできました。奈良東大寺の大仏は、その平癒祈願のために建立されました。当大学の前学長村上陽一郎氏は『ペスト大流行』（岩波書店、1983）を著し、今また広く再読されています。死生学研究所連続講演会で本年 11 月に上智大学大学院実践宗教学研究科委員長島藺進氏は「新たないのちの危機とケアのかたち」という題で講演されます。これはコロナ禍の中「新たないのちの危機」的状況の中で実践宗教学としてどう「ケア」に取り組んでいくかというテーマです。もしあなたならこの現状に対してどのようなケアに取り組んでいきますか、1000 字以内で論述して下さい。

II. 本年 4 月に作家曾野綾子氏 (88 歳) の著書『死学のすすめ—死はおそれるものではなく学ぶもの』(ワニブックス、2020) が出版されました。死生学の見地から、この題の通りだと思えます。デスエデュケーションという教育も世界ではしっかりと行われています。日本ではまだまだこのような教育が少ない状況です。あなたなりの「死学のすすめ」を 1000 字以内で記述して下さい。